

刑法 出題の意図

問題1

刑法総論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、責任論における基本的論点に関する知識を問うものである。責任能力の基本的な内容に関する理解を踏まえ、「行為と責任の同時存在の原則」に関する例外を認めるか否か、認めるとしてどのような理論構成によるかについての学説の対立を正しく理解しているかが問われる。

(2)は、刑法の事例問題解答における最後の要であり、また実務では必ずその正確な理解が要求される罪数論に関する基本的な知識を問うものである。観念的競合および牽連犯という2つの仕組みを正しく理解し、それがどのような場合に使われるかに関する適切な事例設定を中核に問うものである。

問題2

未成年者拐取罪の保護法益という刑法各論上の典型論点を問う事例問題である。同罪の保護法益に関しては、未成年者の自由という視点と監護権者の権利という視点をどのようにバランス良く取り入れるかが問われるのであり、その正しい理解を前提に、拐取行為に対し「未成年者が同意しているケース」と「監護権者が同意しているケース」を如何に処理するのが適切かという解答者の理論構成を問うものである。